

2024年1月21日（日）18：30～21：00（Zoom）

〈1日目〉

「韓国における教育演劇の取り組みと 芸術講師の育成システムについて」



93

○**柏木** こんにちは。

本日はお集まりいただきありがとうございます。日本演出者協会の柏木俊彦と申します。

国際演劇交流セミナー韓国特集、「韓国の文化政策、韓国の芸術教育を知ろうパートⅡ」を始めたいと思います。

1日目のスケジュールですが、大きく2つに分かれておりまして、まずは講師によるレクチャー、そして参加者の方との質疑応答を考えております。では大変お待たせしました。本日の講師を紹介したいと思います。講師のチョン・ヒョジョンさん、よろしくお願ひします。そして通訳のイ・ジュンヒョンさんです。

○**イ** 通訳のイ・ジュンヒョンと申します。よろしくお願ひします。

○**柏木** ではイさんとチョン・ヒョジョンさん、お願ひいたします。

■文化芸術教育の現場事例&芸術講師育成システムについて

○**チョン** 本日は私、芸術夢学校の代表チョン・ヒョジョンが講師を務めさせていただきます。本日のテーマ「文化芸術教育現場の事例と、芸術講師の育成システム」についてご説明させていただきます。

講師



チョン・ヒョジョン

- 芸術夢学校代表
- 韓国教育演劇学会理事
- 韓国文化芸術教育士連合会副会長
- 文化芸術教育士
- 演劇分野の学校芸術講師

韓国文化芸術教育振興院、京畿道教育庁、ソウル文化財団、九老文化財団、仁川文化財団、三星夢奨学財団、ソウル大学、同徳女子大学、中部大学・極東大学・仁荷大学文化芸術教育院など出講

簡単に私の略歴について説明させていただきます。

- ・ 芸術夢学校代表
- ・ 韓国教育演劇学会理事
- ・ 韓国文化芸術教育士連合会副会長
- ・ 文化芸術教育士
- ・ 演劇分野の学校芸術講師として韓国文化芸術教育振興院、京畿道教育庁、ソウル文化財団、九老文化財団、仁川文化財、三星^{サムソン}夢奨学財団、ソウル大学、同徳女子大学、中部大学、極東大学・仁荷大学文化芸術教育院などに出演しています。

■第1部 文化芸術教育の現場事例

先に、「文化芸術教育の現場の事例」をご説明させていただきます。



この写真は今までの活動の中で、「市民文化芸術教育」というテーマのものです。その中で国家のブランド力を高めるための文化企画として、読書する過程を描いたドラマとなっています。市民の活動が国のブランド力を高めるということがテーマとなっております。

95



こちらは地域のサポートとして、経済的な環境があまり良くない子どもたちを支援するという活動になっております。放課後、彼らたちが演劇をする体験とか、そのサポートをするということをしています。これは私が地域児童センターを訪問して行った活動

の中の1つとなっております。



こちらも同じような、経済的に良くない子どもたちを支援する活動の1つなんですけれども、これは先ほどお見せした写真のように、私が自費で訪問して行ったというものとは別で、サムソンの夢奨学財団と組んでサポートしたものとなっております。他の団体も一緒に伺ってサポートしたものです。

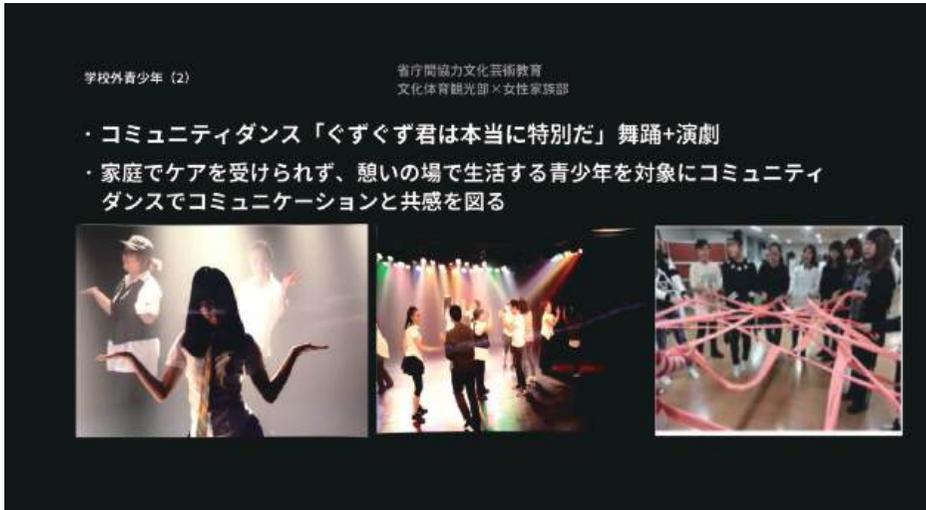
学校外青少年(1)

省庁間協力文化芸術教育府
文化体育観光部X女性家族部

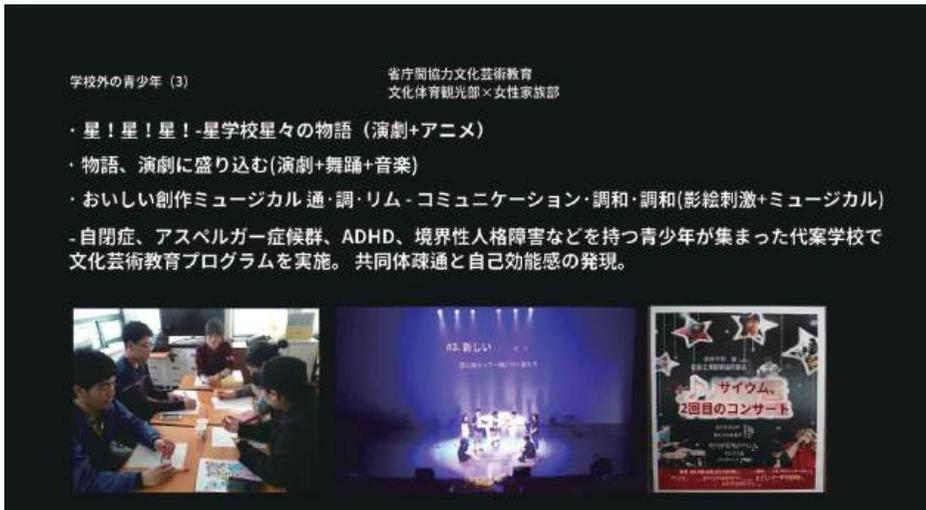
- ・ ミュージカルアカデミー <私たちの幸せな時間>
脱学校の青少年たちが建てた代案学校「希望の我が学校」
学校外の青少年の話でパフォーマンス&公演づくり



韓国の文化芸術教育の支援ですけれども、それぞれの部署間の行政で組んでサポートするという事になっております。青少年に関する事業は、文化体育観光部と女性家族部という部署が行いました。写真は学校に行くことをやめた青少年たちが、代案学校として「希望のわが校」を立ち上げるまでの過程を描いたもので、今まで受けて来た偏見などを演劇という形でパフォーマンスしたのになります。



こちらと同じような青少年事業なのですが、単なる経済的な問題ではなく、家庭内暴力などよくないことがあった青少年たちを支援する活動で、ダンスや演劇でサポートしています。「憩いの場」という彼らが集まる場所を訪問して、演劇を盛り込んで作り上げた作品になります。



こちらは自閉症やアスペルガー症候群、ADHDなどを持っている子どもたちをサポートする活動で、人格障害などを持つ子どもたちが通う代案学校で演劇のプログラムを実施しています。

非行青少年

省庁間協力文化芸術教育
文化体育観光部×法務部



こちらは非行青少年を演劇を使って支援していきまして、文化体育観光部と法務部が担当しています。犯罪を犯したり、非行に走った子どもたちをポジティブな方向に変えていくサポートをしています。

軍部隊の文化芸術教育

省庁間協力文化芸術教育
文化体育観光部×国防部

- ・軍部隊と共にする創作ミュージカル「青春礼賛」
- ・文化芸術教育を通じて活気に満ちた軍部隊生活ができるように助けるミュージカル創作過程



こちらは軍部隊の芸術教育のサポートです。文化体育観光部と国防部、日本で言う防衛省が協力して、韓国で兵役の義務を行っている軍人たちを対象にして、土曜日にミュージカルなどの演劇活動を行っています。

このプログラムで印象に残っていることは、国家プログラムの中で、他のプログラムとは異なり、軍隊の中は規律が非常に厳しく統制が取られていますので、それらをひと

つひとつ守りながらどうやって演劇を作るのかということです。演劇の大会に出た軍人たちは、軍人にとって一番のご褒美である休暇をもらえたというエピソードもありました。彼らにとっても喜んでもらえました。

老人文化芸術教育 瑞草文化院

- ・ 伝統音楽劇 <豊年になる> 作, 演出
- ・ 創作音楽劇 <こぶとりじいさん> 作, 演出
- 芝居遊びによる自我発見。伝統音楽と伝来童話を組み合わせた創作活動。



こちらに関してはまた違う角度で、お年寄りの方々の文化芸術教育という観点で、韓国の固有の音楽、伝統の昔話などを創作活動として行ったのが1つのポイントになっております。韓国には地域ごとに、文化院としてお年寄りの方々が集まる場所があるんですけれども、そういうところでの活動の中の1つになります。

屋根裏土曜文化学校 韓国文化芸術教育振興院/地域別文化芸術教育支援センター

- ・ 2014 青少年文化芸術進路体験プログラム<青少年演劇教室・俳優を夢見る>
- 俳優を夢見る青少年たちと進路を探索/ バックステージツアー及び俳優特講など
- ・ 2017 アーカイブ作成者, 芸術でヨンチュンを語る/ 映画+演劇+舞踊
- ・ 2018 青少年選り芸術プロジェクト<자白. 尋夢. 청春> / 演劇+舞踊+美術
- 仁川江鳴ワンジョン駅を中心に市民対象のストリートアートフェスティバルを企画・実行



こちらは「夢屋根裏土曜の文化学校」というもので、それぞれの地域で17校が都市で行っているサポートのプログラムの中の1つです。先ほどご紹介したプログラムは青少年、非行少年をサポートしたのですが、こちらは正規教育を受けている学生たちをサポートしているものです。プログラムを通じて、参加した学生が芸術家になるケースもあり、文化を企画をする立場になるケースもよくありました。

文化芸術教育士活用モデル発掘支援事業

韓国文化芸術教育振興院

- ・文化芸術教育士研修プログラム<熟成工程:熟していく過程>
- ・文化芸術教育士と共にする統合芸術教育<あなたの瞬間を大切に>





※黄色い表は「熟成工房」

こちらは文化教育振興院のプログラムの中で教育を受けた方々が、他の地域などに行って教育を行う場になっております。力量を強化したり、教育を行うことになっております。

青少年創意芸術教育

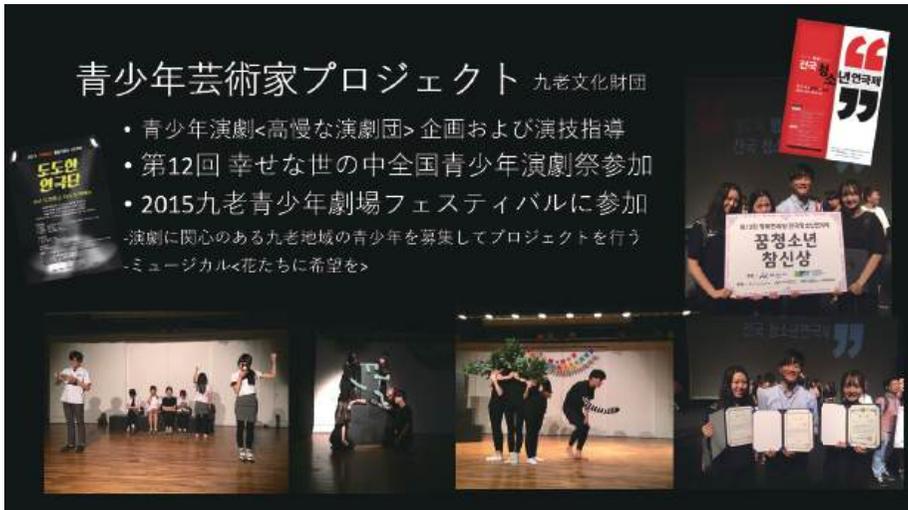
ソウル文化財団

- ・風に3D顔を撮ってみよう
- ・美術(3Dプリンティング活用)、演劇、映像、舞踊統合芸術教育
- ・中学校自由学期制モデル事業
- ・顔を素材にした自己発見・感情表現プログラム

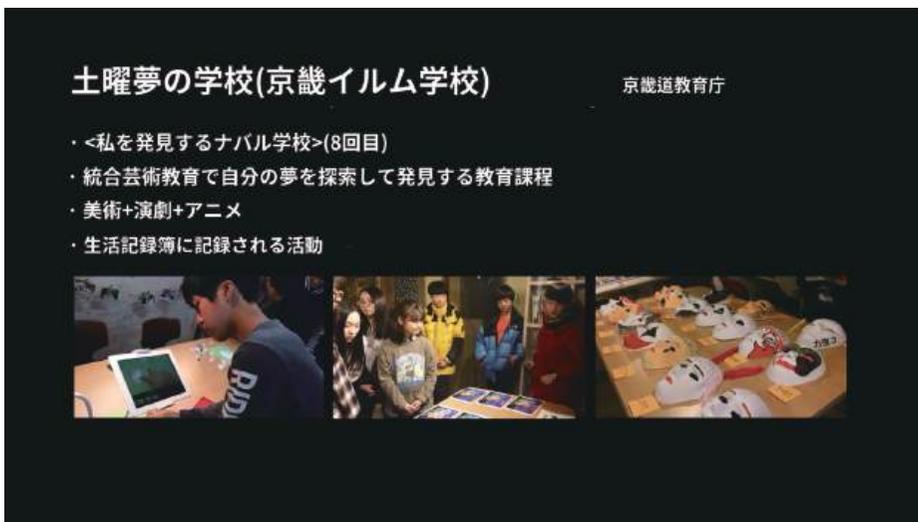




韓国では、中学生時代に一定期間、自分が決めた科目を取るという制度があります。ソウル文化財団のプログラムの中の1つなんですけれども、そこでは演劇と映像と舞踊などの、統合の芸術教育を行ったという実績になっております。



ソウルのある地域で九老という場所の、九老文化財団が主催したものなんですけれども、青少年たちが演劇を作ったり、演劇の大会に出たり、フェスティバルに参加して演劇を行ったというものになっております。



韓国の教育部ではいろいろな活動に興味を持っているんですけども、京畿道(キョンギド)という地名の教育庁で、「イルム学校」という「土曜日夢の学校」という活動を行ったものになります。ただの演劇の活動だけではなくて、学生たちが行った活動、

韓国で成績の次に重要視される、こういった生活を送ったのか、生活記録簿にも記録される活動の1つとして行われていたものになります。



これも同じく先ほどの京畿道の教育庁が主催したものなんですけれども、討論演劇というもので、青少年たちがどんな悩みを持っているのかというテーマに作り上げた演劇となります。



韓国の芸術家福祉財団が、いろいろな家族に、演劇などで支援をする補助金制度があります。その補助金を元に家族参加型の演劇を作り上げたものがこちらです。

学校芸術講師支援事業

韓国文化芸術教育振興院

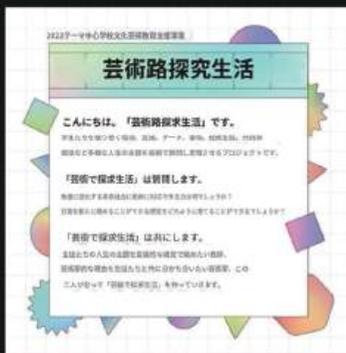


後ほど触れますが、学校の芸術講師を支援する事業が、韓国文化芸術教育振興院（アルテ）で行われています。要は芸術講師をそれぞれの地域に派遣して、演劇講師をそれぞれの地域で育成するというのが主旨で、2016年から現在に至るまで活動を続けています。

芸術で探求生活

韓国文化芸術教育振興院

テーマ:共に生きるということとはどんな感覚が必要なのか



小学1年生対象
関係づけが苦手な生徒たちに
絵本を介した過程
ドラマ活動で関係づけ
番組



こちらの活動は「芸術で探求生活」というテーマを持って、それぞれのクラスの教師の方々と芸術家が1つのグループを組んで、テーマを何にするか選定をして、実際に作り上げるというプロジェクトです。

当時、私がプロジェクトを行っていたときは、小学校1年生の先生から依頼があって、グループを組んで作り上げたんですけども、小学校1年生なんで、お母さんがいないときにお友達を作るのが難しい、それをどう行えばいいのかという、まだできない段階

のことを、絵本に盛り込んで、絵本を媒介にドラマ活動として作り上げたものになります。



こちらは「芸術学校にローディング中」というテーマで、ちょうどコロナの時期で直接会えなかったので、オンライン上で子どもたちに支援を行ったものになります。YouTubeで行うプログラム教材の開発をしました。



こちらは「芸術花の種学校」という、言葉通りなんですけれども、全校生徒400人以下の小規模学校、農村とか山などの文化芸術に接する機会の少ない地域の子どもたちにチャンスを与えるという支援のプロジェクトを行っておりました。

地域特性文化芸術教育

地域別文化芸術教育支援センター

わが町の小さな劇場プロジェクト

- うちの村も幸せになれるかな？：お母さん（お父さん）と一緒にする演劇遊び
- お母さんが作る我が町の宝物地図：共同育児+統合芸術教育
- お母さん、幸せな村を夢見してお母さんが作る公演<私たちが生きる物語>、立体朗読劇<うどん一杯>



こちらは仁川（インチョン）という地域で行われたものですが、自分が住んでいる地域のことをどのように特化して紹介し、いいものを探してみることをテーマにし「地域特性文化芸術教育」をサポートをしたものです。写真に関しては、ニュータウンという、いきなりファミリー層が増えている都市の性格に合わせて、「共同で育児をするためには」というテーマで行いました。

105

教員研修_課程ドラマワークショップ

- ・ 教育演劇に関心のある学校教師対象
- ・ プログラム体験およびプログラム開発



こちらは、教育で演劇をどうやって使うかに興味がある教員の皆さんに、プログラムを実際に体験してもらったり、演劇のプログラムを開発したりという活動になります。

韓国文化芸術教育士連合会 力量強化ワークショップ 2018-2024



これはワークショップ活動の写真なんですけれども、私が勤めている韓国文化芸術教育士の連合会の力量強化として2018年から毎年行ったものになります。

アルテアカデミー研修(2015-2023)

韓国文化芸術教育振興院

- ・文化芸術教育の専門人材を対象に研修
- ・芸術家、教師、企画者など
- ・オン・オフライン研修実施



韓国文化芸術教育振興院で毎年行っている研修の写真になります。アルテというアカデミーの研修ですね。

海外の専門家を招待するワークショップ



こちらは私が開催したものではなく、参加したものなんですけれども、海外の文化芸術のそれぞれの専門家を韓国に招待してワークショップを行ったものであります。

クムス（夢見る勉強会で夢見るストーリーを作る）プロジェクト



これは私自身の芸術性を継続、維持するための1つとして行っているプロジェクトとなっております。他の芸術家たちと一緒にしているものとなっております。

ボランティア活動_ホルト児童福祉会



ボランティア活動として児童の福祉会で私が行った活動もあります。

○**柏木** ありがとうございます。前半でチョン・ヒョジョンさんの活動を紹介してもらいました。休憩を挟みまして、次は韓国文化芸術振興院におけるファシリテーターの専門の活動を育成する方法などをご案内いただこうと思っております。では10分休憩を入れまして、この後またチョン・ヒョジョンさんをお願いしたいと思っております。チョン・ヒョジョンさん、ありがとうございます。

< 休憩 >

■第2部 芸術講師育成システム

○**柏木** お待たせいたしました。では再開したいと思います。

○**チョン** それでは第2部を始めます。第2部では「芸術講師育成システム」に関してご案内させていただきます。

私がこれから紹介する芸術講師育成システムは、韓国文化芸術教育振興院の基準で話をさせていただきます。

韓国文化芸術教育振興院芸術講師

・芸術講師の種類

- (1) 学校芸術講師
- (2) 福祉機関芸術講師

・教育対象

- (1) 学校芸術講師：小・中・高等学校の生徒たち
- (2) 福祉機関芸術講師：
児童（保育園、保護施設）、高齢者（福祉機関）、障がい者（福祉機関）

・芸術講師の選抜課程

募集公告（アルテ）⇒書類選考⇒面接（口述及び授業実演）

2014年から韓国は、<文化芸術振興法>によって文化芸術の方針を発表しています。

芸術講師の種類は大きく2つに分かれ、1番目は学校に派遣される**学校芸術講師**、2番目は福祉機関に派遣される**福祉機関芸術講師**、これは**社会芸術講師**とも言われています。

学校芸術講師は言葉通り、小学校、中学校、高校の生徒たちを対象にしています。社会芸術講師のカテゴリーとしては大きく、児童、高齢者、障がい者で分かれています。児童というカテゴリーは、保育園や保護施設などに預けられている子どもたちを支援するというカテゴリーになっております。高齢者の場合は高齢者福祉会館に会員として登録されている方々を対象に行っております。障がい者のカテゴリーでも同じく、障がい者専用の福祉施設に登録されている方々を対象にしております。

芸術講師の選抜過程としては、大きく3つに分かれています。

まず募集を出して講師を公募し、募集方法に基づいて申し込みを行うことになります。書類選考の段階で提出される書類の中には、学歴と芸術に関する活動が記載されます。そして最も大事なものとして、中長期的な芸術についての具体的なプロジェクト、これからの計画を記載することになっております。

現在では選抜する人数が非常に限られていますので、ものすごく競争率が厳しくなっています。それで書類選考に合格した方に対して面接を行います。面接では2つ、1つはどういうサポートを行うのかということと、授業を実演するパートが行われます。

韓国文化芸術教育振興院芸術講師

・芸術講師の資格適用基準

- (1) 学歴：大学、産業大学、教育大学、専門大学以上
- (2) 資格要件詳細
 - ・ 関連学科分野専攻者
 - ・ 文化芸術教育士資格所持者（文化体育観光部）
 - ・ 芸術活動証明確認書を発給された者（韓国芸術家福祉財団）

芸術講師の資格の適用基準について説明させていただきます。

大学卒、あるいは、産業大学卒、教育大学卒、専門大学卒が基準となっております。細部を申し上げますと、大学を卒業したら申し込めるわけではなくて、芸術関連の大学卒が基本となります。そして文化芸術教育士という文化体育観光部から発行されている資格を持っている方も志願することができます。韓国芸術家福祉財団から芸術活動証明確認書というのが発行されるんですけども、それを持っている方も志願することができます。

このセミナーを依頼されたときに、育成システムがどういうものなのか説明してほしいとご依頼いただいたんですが、一般的には芸術を専門にしている方々が志願していると理解しています。

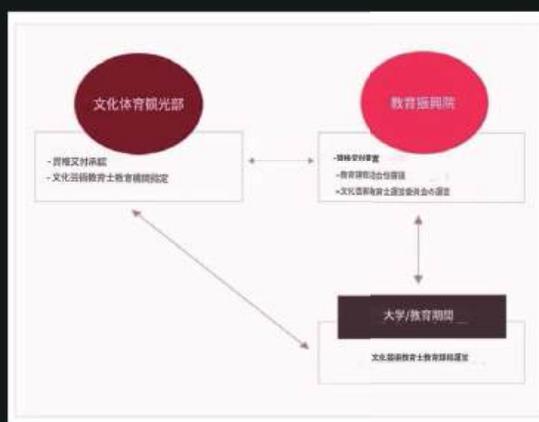
文化芸術教育士資格制度の運営

- ・ 文化芸術教育支援法施行令第21条に基づき、文化体育観光部が発行する国家公認資格
- ・ 芸術家としての専門性と教育家としての力量および資質を備えた専門人材を意味する国家資格制度
- ・ 工芸、国楽、デザイン、漫画アニメ、舞踊、美術、写真、演劇、映画、音楽10分野
- ・ 現在、約3万人を輩出

韓国では文化芸術教育士という資格制度を運営しています。これは2013年度からスタートした制度になります。文化体育観光部から発行する公認の資格というものになります。右の表、学歴要件とともに、教育課程の履修条件がご覧になれます。文化芸術関連大学の卒業生は、職務力量の5科目を修了すると資格を持つことができます。右の表の真ん中のところになるんですけども、高校の卒業生、あるいは芸術関連を専門にしていない方は、15科目の履修が必要になります。国として認める、国家無形文化財の方は、伝授教育を3年以上受けている場合が資格要件となります。左側のポチ3個目なんですけれども、工芸、韓国固有の音楽、デザイン、漫画アニメなど10以上の分野になっております。現在はおよそ3万人を排出しております。

文化芸術教育士資格制度の運営

・事業推進システム



ご覧になっているのは事業推進の体系に関してです。

先ほどご説明した前のスライドでは、専門にしていない方、そして国家無形文化財の方も志願することができますが、でも実際、一般的には、芸術大学の方々がよく志願される状況になっております。

下の大学教育機関から、一定の教育課程を履修すると、大学で得た点数が文化芸術教育士の教育課程の学点として認められる部分があります。大学在学中に文化芸術教育士の教育課程を全て履修している学生ももちろんいます。在学中に全てを取れなかった学生は、文化芸術教育士の養成機関で、別の履修科目を行ってからになります。そうして全ての科目を履修すると、教育振興院から審査を受けることになります。

その後、文化体育観光部から承認を得て資格の発行になります。この課程を通じて資

格を獲得すると芸術講師の資格を持つことになります。芸術講師を派遣することと、養成して資格を発行する2つが育成システムと言えます。

芸術講師育成：アルテアカデミー

- ・ 集体および遠隔研修
- ・ 支援対象：芸術講師、教員、企画者、行政人材、予備人材

芸術講師	・ 学校芸術講師、社会芸術講師
教員	・ 学校の経営者、芸術教師、非芸術教師
企画者	・ 文化芸術教育企画者及び文化芸術団体従事者 文化基盤施設の教育担当者
行政人材	・ 文化財団、文化芸術教育教育支援センター、 文化芸術関連機関
予備人員	・ 文化芸術教育を志望する大学生など

選抜された芸術講師たちはどうなるのか。

採用される前、資格を取得する段階でもかなり大変なのですが、採用された後にも持続するための研修などがあります。

採用後の代表的な育成機関がアルテアカデミーになります。対面で行う研修と、オンラインで行う研修があります。志願できる対象は表の方々です。学校の芸術講師、社会芸術講師、両方に対して研修が行われます。

「教員」というところには、学校の先生はもちろん、学校経営者、芸術講師や非芸術講師なども含まれます。真ん中の「企画者」というところは、文化芸術プログラムを企画する立場の方になります。福祉機関や文化基盤施設に勤めている教育担当者も含まれます。博物館、美術館、図書館に勤める担当者もアルテアカデミーで教育を受けることになります。

「行政人材」は文化芸術の領域ではかなり重要なパートとして扱われています。私の意見ですが、国家事業なので国家で支援する事業を行うにあたって、行政の精算を行ったり、執行することが重要になると思っております。最後の「予備人材」は、今大学在学中の学生の中で文化芸術教育士を志望する方々が対象になっております。

芸術講師育成：アルテアカデミー

・支援基準（2022）

対象	課程数（個）	時間数（H）	人数（人）
芸術講師	36	568	900
教員	7	105	175
企画者	17	236	425
行政人材	4	35	100
小計	64	944	1600

・研修参加費：全額無料

支援基準をご覧になれます。2022年度の基準で支援するそれぞれの現状が分かります。5つの対象にそれぞれ課程数がありますが、芸術講師が36個と一番多くなっており、教員は7個、企画者は17個、行政人材は4個です。

1つの課程により3時間のものもありますが、2泊3日18時間を修了しなければならない課程もあります。課程数と時間で算出すると1600人が2022年度、アルテアカデミーで支援した人数になります。

対面で直接行われる研修、オンライン研修は全て無料になります。対面で2泊3日間行われる研修では、宿舎と食事が全て提供されて、プログラムに必要な準備物なども全て提供されます。人気が高い講義などは募集と同時にすぐ埋まってしまう。1つの講義につき、平均25名を募集しますが、倍率がとても高いです。

ですので、プログラムに志望する動機や、参加する理由などをきちんと作成しなければいけません。それは最上級の講義を準備して、提供しているからでもあります。参加した芸術講師たちも、とても満足度の高いプログラムになります。

文化芸術教育士の現場力量強化事業

支援規模

地域別の詳細な支援状況（2022） 第一級行政区画ごと

地域	文化施設/文化芸術教育士の数	地域	文化施設/文化芸術教育士の数
ソウル特別市	5か所5人	江原特別自治道	4か所4人
釜山広域市	6か所6人	忠清北道	5か所5人
大邱広域市	5か所5人	忠清南道	5か所5人
仁川広域市	6か所6人	全羅北道	6か所6人
光州広域市	6か所6人	全羅南道	5か所5人
大田広域市	4か所4人	慶尚北道	6か所6人
蔚山広域市	5か所5人	慶尚南道	5か所5人
京畿道	5か所5人	済州特別自治道	2か所2人
総計	80か所80人		

「文化芸術教育士の現場力量強化事業」についてご説明します。

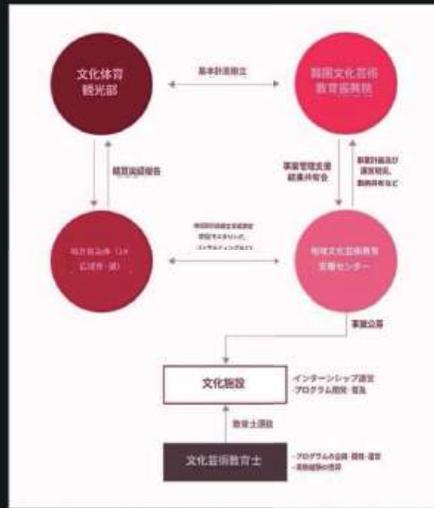
文化芸術教育士の資格を取った方に対して、インターンシップのようなプログラムを支援する事業になります。韓国の17都市の現況になりますが、例えば一番上の一番左がソウルなんですけれども、ソウルの中でもソウル文化財団の下位組織として文化財団が数多くあるんですけれども、その中で5つが選抜されることになります。この5つの文化財団に対して、1つあたり1人という配置になっております。

文化芸術教育士の給与も国からの支援になります。通常、インターンシップの期間は8カ月になるんですけれども、その8カ月間のインターンシップの間の給与も国から支援することになります。

それぞれの文化財団を誘致するための事業が行われます。ですので、表でご覧になっていますように、大体地域によって5カ所5、6名ぐらいの分布になっております。全国を合わせたときに80の文化財団、あるいは文化院が配置されることになります。

文化芸術教育士の現場力量強化事業

・事業推進システム



これは事業の推進体系になります。先ほど私がお説明させていただいた部分を表で示したのになります。文字が小さい部分があるんですけども、文化体育観光部が一番左の一番上になります。右側に文化芸術の進行の基本計画が立ち上がることになります。右下の方には地域文化芸術教育支援センターになりますが、私がちょっとポイントをしてみます。こちらになります。

115

今ポインターで丸つけたところが、各地域の文化芸術センター17個になっております。年初になると文化芸術の支援事業を行うという発表を行います。公募を行ったものに対して、それぞれ各自治体の傘下にある文化施設から、支援センターに志願することになります。非常に多くの文化施設、団体が志願することになります。

その中で、前のスライドの表にもありましたように、5個から6個の団体が選ばれることになります。選定されることになると、そこから講師を1人ずつ派遣することになります。



文化体育観光部、そして右上の韓国文化芸術教育振興院、そして左下のそれぞれの自治体の予算を統合して、予算を拠出して右下の地域文化教育支援センターのところに配分されることとなります。以上が最近まで行われている芸術講師の支援システムとなっております。

画面の共有は可能ですか？ 私がアルテアカデミーのホームページで実際に運営されるるところを共有させていただきたいのですが。

今、ご覧になっているホームページがアルテアカデミーの実際のホームページです。中に入ると研修を申し込むことができます。



研修の申し込み、2023年、昨年の例を挙げてみます。月々の現状になります。左の日程別とカテゴリー別、誰を対象にしているのか、学校教師か、芸術講師を対象にしているなど研修対象者が教員共通なのかということが記されています。先ほど説明した社会芸術講師もあります。月別にそれぞれ自分が求めている講義を申し込むことができます。





実際の授業の部分をお見せします。
真ん中にいるのが私です。



こちらが実際に授業を行っている研
修の場面になります。



先ほどのスライドでご説明させてい
ただいた芸術講師、学校芸術講師、
社会福祉芸術講師、企画者、行政、
そして教員まで、それぞれのカテゴ
リーが対象になります。



みんなで集まって、年間の授業計画
を企画してみたりということも行って
おります。

現在は運営されてないものではありませんが、こちらに正規の研修がありま
す。



こちらの画面は、先ほど実際に研修を現場で受けるというものと、オンラインがあると申し上げたんですけれども、こちらはまた別で、動画を見て研修を受けるというカテゴリになります。特に学校芸術講師と社会芸術講師はこちらの動画での教育が義務となっております。以上となります。



○**柏木** ありがとうございます。ここまでが講義の時間となりまして休憩を挟みます。休憩を挟みましてQ&A時間になります。チャットの方にも少しずつ質問が入ってきておりますが、もし聞きたいことありましたら、この休憩の時間にチャットに書き込んでください。また直接講師に画面をオンにして聞いていただくことも可能でございます。では10分休憩取ります。

チョン・ヒョジョンさん、ありがとうございます。ここまでお疲れ様です。カムサナムニダ。

< 休憩 >

○**柏木** お待たせしました。再開いたします。チャットにご質問いただいておりますが、直接講師に聞いてみたい方がいらっしゃいましたら。いかがでしょうか？ 画面オンにさせていただいてもお声だけでも大丈夫です。

■ 質疑応答

○**参加者1** こんにちは。チャットに書いたことをそのまま質問します。2つ書いたのですが、予算に関して、日本側から羨ましい限りだという声があがりそうなのですが、開示できる範囲で予算の規模や決定過程について教えていただければ嬉しいというのが1点。

私も芸術家で、人に教えたりすることもあるのですが、とても興味深いと思ったのは、芸術家を短期間、8カ月なり1年なりで、しかも先生を育てるというのはどういうところにポイントが置かれているのか、教育方法のスキルなどがありましたら教えていただけたらという2点の質問になります。よろしくお願いします。

○**チョン** 1つ目の質問について。全体の国家予算額については私が今知る立場ではないので開示することは難しいのですが、調べれば出て来る額ではあります。決定する過程についてもご質問いただいたのですが、予算を決めるにおいて、文化体育観光部からその下位組織にあたる文化芸術振興院、その下位にあたる各都市別の文化財団や、振興院の各プロジェクトで総合して全体の予算が決まることとなります。

プロジェクト単位ではあるのですが、先ほど例にあげた、学校の外にいる生徒たちを支援するプロジェクトは大体1年単位で行われるのですが、観光通貨で約1300万ウォン、日本円だと110万円規模で予算が組まれています。1300万ウォンには講師への費用や材料費なども含まれています。

2つ目の質問について、8カ月という短期間は、インターンシップの中の1つのプログラムになりまして、文化芸術教育士育成の全体を指すものではありません。実習講師として間接的に経験するという主旨を持ってインターンシップを行うんですけども、その中でご本人がそれぞれのプログラムを開発したり、予算を実際に生産したりということが含まれています。そしてインターンシップを受ける方々を、同時に支援するプログラムも行われています。

○**参加者1** そうすると1人の演劇講師を作り上げるためのトータルの期間は、どれくらいになるのでしょうか。

○**チョン** 1つの例を挙げると、大体2年ぐらいはかかるのではないかと思います。ただその2年というのは、演劇を大学のときに専門として扱っていた大学生を前提にして、6カ月の研修を受けて、資格制度の8カ月などを含めて大体2年くらいかなと。

他のカテゴリーもあったんですけども、その場合はちょっと異なるかなという感じですか。慣れるまでは補助講師として参加したり、慣れてきたら本人のプログラムで参加したりと段階を踏んだりもします。これは必ずしも決まったルールではなくて、力量の個人差もありますので、最初からかなり力量があってできる子もいたりします。

○**参加者1** ありがとうございます。カムサハムニダ。

○**柏木** ありがとうございます。参加者2さん、どうぞ。

○**参加者2** すみません、チャットの方では6点ぐらい質問を入れさせていただいたんですけども、その中で2点。

冒頭で国のブランドを高めるということをおっしゃっていました。それから国家プロジェクトの大元となる制度文書としての芸術文化振興法ですね、国家ブランドとの関係で、芸術文化振興法っていうものは策定されてるんだろうと思うんですが、日本では似たようなものがあったとしても、それは絵に書いた餅のようなもので、教育現場でも、一般家庭でも、周知のものとなっていないわけなんですけど、芸術文化振興法っていうものは、制度文書としてどのくらいの実行力、強制力、拘束力というものを持っているのでしょうかという質問が1つ目です。

2つ目はアルテアカデミーで年間175人、教員の実行者がいるわけなんですけど、アウトリーチで専門家が来てくれる中で、そういうことを学びたいという教員は、一体どのような目的で、どのようなモチベーションを持って受講しているのでしょうか。この2つのことを教えていただけると嬉しいです。お願いいたします。

○**チョン** 1点目の芸術文化振興法に対しての実行力など、日本との違いなんですけれども、2013年に韓国で制度ができたときは、初期に関しては強制力がありました。全ての美術館だったり、図書館だったり、文化振興院に芸術に関連するところが制度に従うという強制力があつたんです。

ただ、数年経ってからは強制力は廃止になって、それぞれの文化振興院などの、美術だったり芸術だったり、そういった事業に任せるといって、ある意味では浸透が行われているということになっております。

そして余談ですが、先ほどの国家ブランドという話について、とあるプロジェクトの中の1つだったので、全てのブランドを上げるというものではなかったのですが、国家ブランドはスイスのあるジャーナリストが書いた本を読んで、1つのプロジェクトとして意識を変えてみようということで私が企画をしたものになります。

2つ目のアルテアカデミーを受講する教員の目的、モチベーションですけれども、モチベーションに関しては、韓国の教師の評価の点数に、教科科目としてアルテを受講することが教員の評価に参入されているところが1つあって、制度的な部分で従っているのではないかと思います。もう1つは芸術に関心を持っている方々が履修するモチベーションの1つになってるかなという点が考えられます。

○**参加者2** ありがとうございます。そうしますと1点目のことですが、いわゆる強制されている年数の間に、ランディングのうちに浸透して、その良さが周知のところになって、自主的な参加が高まったというふうに考えてよろしいでしょうか。

○**チョン** 「半分の自由」ということが適切かもしれません。強制力はない状態ではあるんですけども、先ほどの4つの表があって、○をした表なんですけれども、そもそもの制度の下での公募事業でなければ、それぞれのプロジェクトを自立性だけに任せるとそこまで成り立たないんじゃないかなというところから、半自立とか半自由という形ではないかなと思います。

○**参加者2** ありがとうございます。日本の課題を解決するヒントもいただいたように思います。ありがとうございます。

○**柏木** 参加者2さん、ありがとうございます。ではチャットからの質問をこちらからいたします。

国家制度が導入されてから約10年経ったと思いますが、制度の課題やその解決のために、国内で議論されていることがあれば教えてください。

○**チョン** 課題は複数あります。その中で今議論として出て来ている1つは、文化芸術教育士の資格制度の中身として、現状は2級を忠実に遂行できたら5年後には1級になることができます。本来の主旨としては、1級になったらもっと高次元の権威をもって、高次元の芸術講師としてのサービスを提供したり、経歴が高くなるのでリーダー的なポジションになっていろんなサービスやサポートをする、それがもちろんできている方もいらっしゃいますが、2級でも十分ではないかという議論があります。

もう1つは現実と理想のギャップです。歌の教室や演劇の発表会の指導というサポートでは、無料ということもあり、たくさんの方から応募をいただき、そこに関しては申し分ないという感じですが、私は単純な次元だけではなく、もっと高次元の理想として、例えば海外の文化芸術と違う独自の創作をしたり、市民教育を行ったり、グローバルな環境の問題。

「国家ブランドをあげるためにはどうすべきか」というテーマで参加者を募集したら、無料であるにも関わらずかなり限られた方からの応募しかなかったんです。市民が求めているものは何なのか、私たちは正しい方向に向かっているのだろうかという議論になったりします。

○**柏木** ありがとうございます。最後の質問です。アルテから学校に派遣と、福祉施設に派遣、2つに分かれていましたけれども、両方に派遣される人はいますでしょうか。スキルが違うことで明確に分けられている、学校と福祉施設の文化芸術講師は分かれているのでしょうか。こちらを聞かせていただければと思います。

○**チョン** 学校と福祉施設は技術的にもシステムのにも2つとも活動が可能となっております。実際に両方行っている講師もいます。ただそうすると、他の講師が取れる時間を取るようになるので、一応制限を設けていて400時数、1人あたり400コマと決めているところでございます。

○**柏木** ありがとうございます。時間になりました。チャットに面白いというか、興味深いことも書いていただいておりますね。「演劇の人と教育演劇の人との差とか、交流」みたいなこととかも聞いてみたいとは思いますが、時間になってしまいました。大変申し訳ないんですが、この質問は講師に余裕があれば、メールのやり取りなどで聞けたら、去年のようにシェアできたらいいかなとも思っております。後で聞いてみますので、よろしくお願いいたします。

では時間になってきました。ここで本日は終わりにしたいと思います。チョン・ヒョジョンさん、ありがとうございました。

○**チョン** ありがとうございます。

○**柏木** チョン・ヒョジョンさんに拍手をして終わろうと思います。

ありがとうございます。よろしければ皆さんとのウェブでの記念写真を撮りたいとお話いただいたんですが、スクリーンショットで撮りますので、お顔を出せる方は出してください。ありがとうございます。



では、明日もよろしくお願いいたします。
お疲れ様でした。ありがとうございました。

記録：松田文